論文審査の要旨および担当者

報告番号	甲　第　　号	氏　名	Marcos Sadao Maekawa　（前川マルコス貞夫）
論文審査担当者：	主査	慶應義塾大学メディアデザイン研究科教授　博士（政策・メディア）中村伊知哉	
	副査	慶應義塾大学メディアデザイン研究科教授　博士（政策・メディア）稲蔭正彦	
	副査	一橋大学名誉教授　博士（経営学）石倉洋子	
	副査	慶應義塾大学環境情報学部長・教授　博士（工学）村井純	
（主指導教員）		慶應義塾大学メディアデザイン研究科教授　博士（政策・メディア）大川恵子	

（論文審査の要旨）

前川マルコス貞夫君の学位請求論文は、「Designing Global Education for Youth in the Internet-based Society」と題し、6 章から構成される。論文では、まず、インターネット前提社会におけるグローバル教育のあり方を議論し、新しいゴールを提案した。次にそれに基づき、ICT を活用したグローバル教育のフレームワークを設計し、アジアの中高生を対象にした 3 年間にわたるワークショップの実践を行った。この論文は、その実践を通して得られた知見をまとめたアクション・リサーチ型研究の成果記録である。筆者は、議論の中で、急速に相互連携が進むグローバル社会において、グローバル教育の重要性に加え、社会の変化により変わってくるグローバル教育のゴールそのものの議論の重要性を主張している。

筆者は、グローバル教育をアジアの中高生に対して実践・促進するために AGORAsia Youth というオンラインコミュニティを形成し、そこをフィールドに研究を進めた。このコミュニティは、UNESCO ジャカルタオフィスと慶應義塾大学メディアデザイン研究科グローバルエデュケーションプロジェクト(KMD G-EDU)が共同で推進するもので、筆者は、KMD G-EDU の中の研究者としてこの研究を実践している。

筆者は、グローバル教育、グローバル市民に関する研究および各国・地域の現状を、論文、文献他を通して注意深く調査し、インターネット前提社会において、特にアジア地域に生活する中高生がグローバル市民として持つべき能力や技能、を定義した。

次に、関連研究および、筆者自身が体験・実践した過去の事例とフィールドワークを通して、グローバル教育を実践する、ICT とデジタルメディアを活用したオンラインワークショップのプログラムの基本構成を設計した。2012 年から 2014 年にかけて毎年 1 回、合計 3 回のワークショップシリーズを実践した。各ワークショップはそれぞれ 3 セッションからなり、アジア 5 カ国 8 箇所から参加した 74 名の中高生に向けた実践を行い、結果を分析し、改善を加えて、ワークショップの構成を完成させた。プログラムに参加した様々な国からの中高生は、リアルタイムに互いに話し合いを行うコミュニケーションを通して、多様な国や地域、多様な文化を体験することができた。

このアクション・リサーチ型研究の成果として、提案したオンラインワークショップが、参加者のグローバル社会に関する自覚を高め、参加者同士のコミュニケーションとコラボレーションを促進することを示した。また同時に、参加者のデジタルリテラシおよびデジタル活用力の向上に貢献した。さらに、参加した生徒達がワークショップ後にグローバルな活躍を視野にいれた進路を選ぶなど、将来設計にも影響を与えたことを示している。これらの結果から、ICT とデジタルメディアがグローバル教育を目的としたオンラインワークショップの設計と実践に重要な役割を果たし、大きく貢献することが明らかになった。

この研究成果は、インターネット前提社会における中高生のための新しいグローバル教育のあり方に新しい視座を与え、日本とアジアの中高生向けた実践は、コミュニティの全ステークホルダーによって高く評価された。また学会発表等でも認められ、より広くインターネット前提社会全体に展開していくことが期待されている。よって，本論文は博士（メディアデザイン学）の学位論文として十分な価値を有するものと判断した。

審査経過

1. 2011 年 2 月 25 日，12:30-13:30 予備口頭試問審査会が協生館 C3S01 教室にて開催され，審査の結果合格した．予備口頭試問審査委員 ： 大川恵子，中村伊知哉，石倉洋子
2. 2016 年 1 月 28 日，19:00-20:20 博士論文公聴会が協生館 C3S01 教室にて開催された．同公聴会終了後，別室で博士論文審査会が開催され，全会一致で合格を決した．なお，公聴会出席者は以下の通りであった：
   博士論文審査委員　4 名
   本研究科委員　1 名
   来場者　約 20 名
   Youtube Live 視聴者　約 7 名